

地震ハザードステーション J-SHIS のアクセス状況とアンケートの実施結果

Access situation and result of the questionnaire of J-SHIS

小林 京子 [1]; 河合 伸一 [1]; 藤原 広行 [1]

Kyoko Kobayashi[1]; Shinichi Kawai[1]; Hiroyuki Fujiwara[1]

[1] 防災科研

[1] NIED

<http://www.j-shis.bosai.go.jp/>

「地震ハザードステーション J-SHIS (Japan Seismic Hazard Information Station)」(<http://www.j-shis.bosai.go.jp/>) の公開が始まり1年が過ぎた。J-SHIS は、地震調査研究推進本部地震調査委員会が取りまとめた「全国を概観した地震動予測地図」(2005年3月23日公表)の作成に用いた詳細なデータを公開するシステムである。地震動予測地図を閲覧するだけでなく、数値データや各種パラメータ等もダウンロードも可能となっている。

2005年5月9日に公開を始めてから、約1ヶ月で10万件のアクセスがあり、2006年1月31日までに約30万件を超えるアクセスがあった。地震・工学・建築等の専門家だけでなく、一般の方々からも広くアクセスされている。これらのアクセスを解析する事により、様々な種類の地図の利用状況を把握する事ができる。

地震動予測地図のうち、特に確率論的地震動予測地図に対する意識を調査するために、以下のアンケートを実施した。

基本情報：住所・年齢・性別

質問1 震度いくつ以上の揺れに見舞われると想定されるとき、以下に掲げる地震防災対策を実行しようと思いませんか？

- (1) 避難場所を確認する
- (2) 家具などの転倒防止対策をする
- (3) 地震保険へ加入する
- (4) 耐震診断を受ける
- (5) 耐震改修を行う

質問2 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率が何%のとき、以下に掲げる地震防災対策を実行しようと思いませんか？

- (1) 避難場所を確認する
- (2) 家具などの転倒防止対策をする
- (3) 地震保険へ加入する
- (4) 耐震診断を受ける
- (5) 耐震改修を行う

質問3 現在、確率評価の期間として、30年および50年が設定されています。確率評価の期間として必要と思うものをお答えください。

- (1) 10年 (2) 30年 (3) 50年 (4) 100年 (5) その他(自由回答)

質問4 現在、約1キロメッシュの単位で地図が作成されていますが、今後どの程度のメッシュサイズでの地図が作成されることを希望しますか？

- (1) 1km (2) 500m (3) 250m (4) 50m (5) その他(自由回答)

質問5 その他意見

実施期間は、2005年9月1日～2006年1月9日で、回答数は492であった。今回の発表では、アンケート結果を含め、J-SHISの利用状況を報告する。HPのアクセス解析やアンケート結果から、地震動予測地図の利用度や理解度、問題点等を明確にし、今後の運用の参考にしていこうと予定である。